

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成21年7月9日(2009.7.9)

【公開番号】特開2008-68118(P2008-68118A)

【公開日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【年通号数】公開・登録公報2008-012

【出願番号】特願2007-277895(P2007-277895)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

A 6 3 F 7/02 3 1 5 Z

【手続補正書】

【提出日】平成21年5月21日(2009.5.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

打玉が打込まれる遊技領域と、開成翼片の駆動によって打玉が入賞し易い状態と入賞し  
 難い状態とに変化する始動口と、表示状態が変化可能であって前記始動口への入賞を条件  
 として可変開始する可変表示装置とを有し、該可変表示装置の表示結果が予め定められた  
 特定の表示態様となったときに所定の遊技価値を付与可能となる遊技機であって、

表示状態が変化可能であって、前記可変表示装置の表示結果とは別に表示結果を導出表  
 示する可変表示部と、

予め定められた上限数の範囲内で前記始動口への入賞の成立回数を記憶する条件成立回  
 数記憶手段と、

前記始動口への入賞が発生したときに前記条件成立回数記憶手段の記憶値が前記上限数  
 に達していないことを条件として、前記条件成立回数記憶手段に前記始動口への入賞の成  
 立回数を累積的に加算して記憶させる加算手段と、

前記可変表示部の表示結果が予め定めた当りの表示結果となったときに前記開成翼片を  
 駆動して開成させることにより前記始動口を前記打玉が入賞し易い状態にする駆動手段と

、  
 前記可変表示部の表示結果が前記当りの表示結果となったときの前記開成翼片の 1 回あ  
 たりの開成時間が所定時間である通常状態と、前記可変表示部の表示結果が前記当りの表  
 示結果となったときの前記開成翼片の 1 回あたりの開成時間が前記通常状態よりも長い変  
 動状態とのうちのいずれか一方に制御する変動制御手段と、

前記可変表示装置の表示結果を前記特定の表示態様とするか否かを決定する表示結果決  
 定手段と、

前記条件成立回数記憶手段の記憶値が所定の基準値以上となったか否かを判定する基準  
 値判定手段と、

該基準値判定手段により前記条件成立回数記憶手段の記憶値が所定の基準値以上となっ  
 て短縮条件が成立したと判定されたことを条件として、前記可変表示装置を可変開始させ  
 てから表示結果を導出表示させるまでの可変表示制御時間として、予め定めた通常時間よ  
 りも短い短縮時間を選択するするとともに、前記短縮条件が成立しているときに前記可変  
 表示装置においてリーチ状態が表示されない場合の前記可変表示制御時間として、前記変

動状態の方が前記通常状態よりも短い短縮時間を選択する可変表示制御時間選択手段と、  
前記表示結果決定手段の決定および前記可変表示制御時間選択手段の選択に従い、前記  
可変表示装置を可変開始させた後に該可変表示装置の表示結果を導出表示させる可変表示  
制御を行なう可変表示制御手段と、

前記可変表示制御の実行毎に前記条件成立回数記憶手段の記憶値を減算する減算手段と

、  
前記通常状態から前記変動状態になったことを判定する遊技状態判定手段と、  
該遊技状態判定手段によって前記通常状態から前記変動状態になったと判定されたとき  
に、前記基準値を前記通常状態のときの値よりも小さい値に変更する基準値変更手段とを  
含むことを特徴とする、遊技機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００５】

この不都合を防止するため、基準値を比較的小さい値に設定した場合、可変表示条件の成立頻度が高い状態にないときには、始動入賞がさほど頻繁に発生している状態でないにもかかわらず可変表示制御時間の短縮が行なわれてしまうために、可変表示装置が可変表示することにより遊技者に付与される期待感やスリル感が少なくなって遊技がつまらなくなってしまうという不都合が生じていた。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

本発明はかかる実情に鑑み考え出されたものであり、その目的は、可変表示条件の成立頻度が高い状態において、可変表示条件の成立が記憶されることなく無効となってしまう  
という不都合を極力防止することである。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

請求項１記載の本発明は、打玉が打込まれる遊技領域と、開成翼片の駆動によって打玉  
が入賞し易い状態と入賞し難い状態とに変化する始動口と、表示状態が変化可能であって  
前記始動口への入賞を条件として可変開始する可変表示装置とを有し、該可変表示装置の  
表示結果が予め定められた特定の表示態様となったときに所定の遊技価値を付与可能とな  
る遊技機であって、

表示状態が変化可能であって、前記可変表示装置の表示結果とは別に表示結果を導出表  
示する可変表示部と、

予め定められた上限数の範囲内で前記始動口への入賞の成立回数を記憶する条件成立回  
数記憶手段と、

前記始動口への入賞が発生したときに前記条件成立回数記憶手段の記憶値が前記上限数  
に達していないことを条件として、前記条件成立回数記憶手段に前記始動口への入賞の成  
立回数を累積的に加算して記憶させる加算手段と、

前記可変表示部の表示結果が予め定めた当りの表示結果となったときに前記開成翼片を  
駆動して開成させることにより前記始動口を前記打玉が入賞し易い状態にする駆動手段と

、

前記可変表示部の表示結果が前記当りの表示結果となったときの前記開成翼片の1回あたりの開成時間が所定時間である通常状態と、前記可変表示部の表示結果が前記当りの表示結果となったときの前記開成翼片の1回あたりの開成時間が前記通常状態よりも長い変動状態とのうちのいずれか一方に制御する変動制御手段と、

前記可変表示装置の表示結果を前記特定の表示態様とするか否かを決定する表示結果決定手段と、

前記条件成立回数記憶手段の記憶値が所定の基準値以上となったか否かを判定する基準値判定手段と、

該基準値判定手段により前記条件成立回数記憶手段の記憶値が所定の基準値以上となって短縮条件が成立したと判定されたことを条件として、前記可変表示装置を可変開始させてから表示結果を導出表示させるまでの可変表示制御時間として、予め定めた通常時間よりも短い短縮時間を選択するするとともに、前記短縮条件が成立しているときに前記可変表示装置においてリーチ状態が表示されない場合の前記可変表示制御時間として、前記変動状態の方が前記通常状態よりも短い短縮時間を選択する可変表示制御時間選択手段と、

前記表示結果決定手段の決定および前記可変表示制御時間選択手段の選択に従い、前記可変表示装置を可変開始させた後に該可変表示装置の表示結果を導出表示させる可変表示制御を行なう可変表示制御手段と、

前記可変表示制御の実行毎に前記条件成立回数記憶手段の記憶値を減算する減算手段と

、

前記通常状態から前記変動状態になったことを判定する遊技状態判定手段と、

該遊技状態判定手段によって前記通常状態から前記変動状態になったと判定されたときに、前記基準値を前記通常状態のときの値よりも小さい値に変更する基準値変更手段とを含むことを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

請求項1記載の本発明によれば、可変表示部の表示結果が当りの表示結果となったときの開成翼片の1回あたりの開成時間が所定時間である通常状態よりも、可変表示部の表示結果が当りの表示結果となったときの開成翼片の1回あたりの開成時間が長い変動状態において、可変表示条件の成立が記憶されることなく無効になってしまうという不都合を極力防止することができる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

## 【 0 0 1 9 】

可変入賞球装置 4 について説明する。図 2 は可変入賞球装置 4 の斜視図である。可変入賞球装置 4 には、始動口 5 と、開閉板 7 と、開成翼片 1 0 2 とが設けられている。開閉板 7 は遊技領域 3 の前後方向に所定範囲で傾動可能となるよう、遊技盤 1 の裏面に設けられたソレノイド 8 (図 1 参照) により駆動される。開成翼片 1 0 2 は、遊技盤 1 の裏面に設けられたソレノイド 1 0 3 (図 1 参照) により、始動口 5 を中心に所定間隔だけ開成するように駆動される。図 2 は、ソレノイド 1 0 3 (図 1 参照) が作動した場合の開成翼片 1 0 2 を示す。また図 1 には、ソレノイド 1 0 3 が作動していない場合の開成翼片 1 0 2 が実線で示されており、ソレノイド 1 0 3 が作動している場合の開成翼片 1 0 2 が破線で示されている。なお、ソレノイド 1 0 3 (図 1 参照) が作動していない状態であっても、開成翼片 1 0 2 は始動口 5 に打玉が入賞可能な間隔を保持して閉成している。開成翼片 1 0 2 が開成中は、閉成中に比較して、打玉が始動口 5 へ入賞しやすくなる。